

## 令和3年度地域密着型特別養護老人ホーム桐の花事業報告書

桐の花の事業運営については、入居者の方々が住み慣れた地域でこれまでの生活を継続し、家庭的な雰囲気の中で、可能な限り自立した日常生活を送れるよう、入居者一人ひとりのプライバシーや尊厳を重視し、施設サービス計画に基づき個別ケアの実践に努めました。また、地域社会に開かれ、地域に根ざした施設の運営を行うことが、地域密着型施設としての大切な役割であるとの認識をもって取り組みました。

ただし、長引く新型コロナウイルス感染症のため、外部との交流機会、家族との面会、ユニットを超えた行事については、中止や規模の変更等を余儀なくされました。よって、こういった時代背景を受け、想定される危機に直面しても、入居者の生活を止めない事業継続への取り組みを進めました。具体的には、新型コロナウイルス等の感染症、自然災害による土砂災害発生等について対処すべき内容を取りまとめることや、アフターコロナを見据えた事業運営の進展のための通信環境の整備等を行いました。

### 1 事業の概況

#### (1) 事業種類

ユニット型地域密着型介護老人福祉施設

#### (2) 事業規模

定員 29名 ユニット区分〔こもればい 10名・ぬくもり 9名・やすらぎ 10名〕

### 2 事業の実施状況

#### (1) 生活支援

##### ① 食事

食は健康と楽しみという重要な位置を占めるものであることから、楽しんで食事ができ、かつ、個々の状況に応じた栄養管理をもって、より健康に過ごせるよう努めてきました。また、ユニット内でご飯・味噌汁を作ることにより、食事を準備する音や匂いで家庭的な雰囲気を演出したり、入居者に盛り付けや下膳の手伝いをしていただくことにより、入居者の生きがいの創出ができるよう取り組みました。食事の際の感染対策としては、スペースの確保やテーブルにパネルを設置して、飛沫感染を防止する対策を行いました。

##### ② 入浴

入浴回数は一人につき週2回行い、さらに本人の希望により入浴できるよう毎日入浴を実施しました。また、個浴での対応を基本として、プライバシーに配慮し、ゆっくり入浴を楽しんでもらえるよう心掛けました。個浴での対応が困難な方においては特別浴にて対応し、移乗の際は2人介助で対応するなど、安全に安心して入浴ができるよう努めました。体調不良などで入浴できない時は清拭を行うことで衛生保持に努めました。

##### ③ 排泄介助

排泄リズムの把握をし、一人ひとりに合った排泄介助の検討を行い、入居者がより快適に過ごすことができるよう努めました。

##### ④ 自分らしい生活

一人ひとりの生活のリズムを大切にし、本人の意向を確認しながら支援に努めました。また、入居者が自由で自分らしい生活を送れるよう、個々に応じた支援やこまめな声掛けに努めました。

##### ⑤ 施設内行事・余暇活動

感染対策を重視するため、規模の大きい行事は控えつつも、基本的な感染対策を講じて、ユニット毎での余暇活動を行い、身近な関係性で楽しみある生活を送れるよう努めました。また、全体での行事である喫茶こびりを定期開催することで、飲み物を交えた談話の時間をもつことができました。

⑥ 身体拘束ゼロ

身体拘束から起こるリスクの重大さを知り、「身体拘束を行わないのは当然である」という認識のもとでケアに取り組みました。また、やむを得ず身体拘束を行うケースにおいては、定期的な検証と経過観察をして対応することに努めました。

⑦ 事故防止・リスク軽減

施設内で起こりうる事故を未然に防ぐために、利用者のアセスメントに基づく対応を定期的な会議で検討をしました。また、発生した事故については、関係職員による検証を速やかに行い、再発防止策を検討し、日々の生活における事故及びリスクの軽減に取り組みました。

(2) 個別支援の充実

アセスメントから得た重点的なケアや個別性のあるサービスを提供できるよう、定期又は随時のサービス担当者会議をもち、入居者家族と多職種間の連携をもって取り組んできました。

(3) 健康管理

入居者一人ひとりが心身ともに健康で充実した日常生活が送れるよう、定期バイタルの測定、嘱託医師による回診（週1回）、健康診断（年1回）、歯科検診（年1回）、口腔ケア指導（週1回）を実施して健康管理を行いました。また、年間を通じて、新型コロナウイルス感染症への対応が必要であったため、検温の機会を増やし、かつ、新型コロナウイルス感染症に類似する症状の早期発見に努めました。予防の面では、入居者及び職員のワクチン接種を年度内に3回済ませることができました。加えて、私生活においては、行動の対応マニュアルを示し、共通認識をもって取り組みました。

(4) 生活環境への配慮・衛生管理

居室は、プライベートスペースとして気兼ねなくゆっくり過ごしていただけるよう配慮するとともに、入居者同士の交流の場やご家族の方とのひとときの間としてセミパブリックスペースを設け、入居者に適した生活環境の整備を図りました。

入居者の面会については、感染対策を重視することから通年で対面面会を実施することはできませんでした。対面面会ができない期間、又は遠方の方のためのオンライン面会は、通年で対応しましたが、前年度同様に大きく普及するには至りませんでした。

今年度は、県の介護ロボット等導入支援事業を活用し、施設内のWi-Fi環境を整備しました。併せて、起き上がりセンサーも導入し、生活上のリスク軽減と職員の業務効率の向上に向けて取り組みました。

(5) 会議

施設の管理・運営や援助の方針の統一化を図るため、運営連絡会議、苦情解決事業連絡会議、入所検討会議、ユニットリーダー会議を開催しました。また、地域に開かれた施設運営とサービスの質の向上を目的に、地域代表者等を委員とする運営推進会議を、例年通り定期開催で実施しましたが、感染状況によっては書面会議とし、紙面で意見をいただきました。

[運営推進会議]

開催回	概要
第1回	令和3年4月20日（新型コロナウイルス感染症対策のため書面会議）

第2回	令和3年6月22日（欠席委員2名）
第3回	令和3年8月24日（新型コロナウイルス感染症対策のため書面会議）※新委員に移行
第4回	令和3年10月26日（全委員出席）
第5回	令和3年12月21日（欠席委員2名）
第6回	令和4年2月22日（新型コロナウイルス感染症対策のため書面会議）

#### （6）専門組織の活動

法人全体でのサービスや業務における品質管理を実施するため、事業継続マネジメント委員会、リスクマネジメント委員会、クオリティ向上委員会を設置し、事業所を超えた連携をもって活動しました。なお、各会議の実施においても、参加者を限定するなど、三密を回避して感染対策を講じながら取り組みました。

#### （7）職員研修

新型コロナウイルス感染症対策のため、外部機関の研修機会は大幅に減りましたが、専門職としてのスキルと資質の向上を目指し、研修を選定して参加しました。なお、内部での研修は、クオリティ向上委員会が企画する職員スキルアップ勉強会で、幅広い内容の学びの機会をもつことができました。研修の実施にあたっては、感染症対策を踏まえつつ、ネットからの視聴も取り入れて行いました。

実施月	研修区分	概 要
8	内部研修	第1回職員スキルアップ勉強会「食中毒について」
9	内部研修	新人職員研修 新人職員向けの総合研修
9	内部研修	第2回職員スキルアップ勉強会「身体拘束・虐待について」
10	外部研修	ケアマネ支援センター相談事例紹介研修 久保田介護支援専門員
10	内部研修	第3回職員スキルアップ勉強会「ハラスメントについて」
11	内部研修	第4回職員スキルアップ勉強会「水害・土砂災害・防災情報について」
11	内部研修	第5回職員スキルアップ勉強会「感染症予防・嘔吐物処理方法について」
12	内部研修	第6回職員スキルアップ勉強会「接遇マナーについて」
1	内部研修	第7回職員スキルアップ勉強会「やってはいけない認知症対応」
1	外部研修	認知症介護実践者研修 三浦主任介護福祉士
2	内部研修	第8回職員スキルアップ勉強会「事故防止について」
3	内部研修	桐の花内部研修「①スピーチロックと心理的虐待②介護現場における事故報告書の書き方」
3	外部研修	ユニットリーダー研修（オンライン）山桑介護福祉士

※研修は一定の期間で実施

#### （8）防災対策

災害発生時に入居者と職員が一体となって行動がとれるように防火・防災対策、水害・土砂災害対策を計画し、夜間・日中を想定した避難訓練等を実施しました。

実施日	概 要
7 29	第1回自衛消防訓練（日中の火災想定）避難・消火・通報訓練 宮古消防署新里分署立会い
10 21	防災訓練（土砂災害危険区域の確認、発電機の操作、非常食の作り方）
3 22	第2回自衛消防訓練（夜間の火災想定）避難・消火・通報訓練

(9) 交流・ボランティアの受入れ

新型コロナウイルス感染症対策を重視することから、外部との交流、ボランティア及び実習の受入れは中止しました。また、地域開放としての取り組みである会議室や地域交流スペースの開放も中止としました。

実施日		団体名	区分	主な活動内容
10	21	宮古市立新里小学校	交流	新里太鼓披露（屋外にて）

3 利用者の状況

(1) 年齢状況

区 分	~64	65~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~94	95~99	100~	計
男	0	0	0	2	1	2	0	0	0	5
女	0	0	0	0	3	7	9	5	0	24
計	0	0	0	2	4	9	9	5	0	29
比率 (%)	0.0	0.0	0.0	6.9	13.8	31.0	31.0	17.2	0.0	100.0
平均年齢〔男性 83 歳、女性 90.1 歳、全体 88.9 歳〕 最高年齢 99 歳 最低年齢 77 歳										

(2) 在所期間状況

区 分	1 年未満	1 年以上 3 年未満	3 年以上 5 年未満	5 年以上 10 年未満	計
男	0	0	2	3	5
女	6	6	5	7	24
計	6	6	7	10	29
比率 (%)	20.7	20.7	24.1	34.5	100.0
平均在所期間〔男性 6 年 10 ヶ月、女性 3 年 8 ヶ月、全体 4 年 3 ヶ月〕 最高在所期間 男性 9 年 女性 9 年					

(3) 入退所状況

区 分		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
新 規 入 所 者 数	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	1	0	0	1	1	2	1	0	1	0	7
退 所 者 数	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	1	0	0	1	1	2	0	1	0	1	0	7
月 末 在 所 者 数	男	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	—
	女	24	23	24	24	23	23	22	24	24	24	24	24	—
	計	29	28	29	29	28	28	27	29	29	29	29	29	—
退所者の平均在所者数〔4 年 8 ヶ月〕														



